

平本議員

說明資料

各都道府県教育委員会教育長  
各指定都市教育委員会教育長  
各 都 道 府 県 知 事  
附属学校を置く各国立大学法人の長  
附属学校を置く各公立大学法人の長  
小中高等学校を設置する学校設置会社を  
所轄する構造改革特別区域法第12条第1項  
の認定を受けた各地方公共団体の長

殿

#### 北朝鮮当局による拉致問題に関する映像作品の活用促進等について（依頼）

北朝鮮による日本人拉致問題は、我が国の主権及び国民の生命と安全に関わる重大な問題であり、拉致被害者御家族も御高齢となる中で、時間的制約のある人道問題です。政府としては、最重要課題と位置付け、その解決に向けて全力で取り組んでいるところです。

拉致問題の解決のためには、国民が心を一つにして、全ての拉致被害者の一日も早い帰国実現への強い意思を示していただくことが、問題解決に向けた力強い後押しとなります。

その関連で、これまで拉致問題について触れる機会の少なかった若い世代の方々への啓発が重要な課題となっています。

このため、拉致問題対策本部及び文部科学省では、これまで学校教育における人権教育の実践の場面において拉致問題を扱う際、アニメ「めぐみ」及び映画「めぐみ」を積極的に授業で活用することを促してきたところです。また、授業等でアニメ「めぐみ」等を視聴した上で、自分自身で拉致問題について学習し、拉致問題解決のために自分に何ができるのか、何をすべきかについて深く考える機会とすることを目的として、北朝鮮人権侵害問題啓発週間・作文コンクールを実施しています。

今後とも、拉致問題の重大さを一層御認識いただき、一人でも多くの児童生徒等に拉致問題について関心を持っていただけるよう、令和5年度においても、学校等において、これまで以上にこれらの映像作品を活用していただくとともに、北朝鮮人権侵害問題啓発週間・作文コンクールへの参加について、皆様方の御協力をお願ひいたします。また、小中学生を対象としたこども向けパンフレット「たいせつな人をとり戻すために」、映像作品「北朝鮮による拉致問題を考える—日本の拉致被害者御家族の訴え—」を新たに制作するともに、電子漫画「母が拉致された時 僕はまだ一歳だった」を、学校現場に無償で貸し出しを始めたのでご活用ください。詳細については、貴下担当宛てお送りします。

また、令和5年7月25日（火）午後に「令和5年度拉致問題に関する教員等研修」をオンラインにて実施します。既に貴下担当宛に推薦依頼を送付済みのところ、本研修につきましても引き続き御協力願います。

令和5年4月24日

国務大臣（拉致問題担当大臣）

文 部 科 学 大 臣

松野博一  
永岡桂子

忘れないでください。

拉致という、自由を奪う行為を

監督：大森英敏 脚本：三井秀樹

キャスト

山寺宏一 深見梨加 高山みなみ 羽佐間道夫  
(横田滋役) (横田早紀江役) (横田めぐみ役) (ナレーション)

島田敏 三木眞一郎 田野恵 田原アルノ 川中子雅人 赤池祐美子 ほか

協力：横田滋 横田早紀江 本そういち 双葉社 日本俳優連合 制作協力：時事画報社 デジタルノイズ トランスアーツ  
企画・制作：政府 拉致問題対策本部

●無料ダウンロードはこちらから ➡

<http://www.rachi.go.jp/>

(参考資料 2)

## アニメ「めぐみ」について



アニメ「めぐみ」は、昭和52年、当時中学1年生だった横田めぐみさんが、学校からの帰宅途中に北朝鮮当局により拉致された事件を題材に、残された家族の苦悩や、懸命な救出活動の模様を描いた25分のドキュメンタリー・アニメです。

アニメの制作に当たっては、漫画「めぐみ」（原作・監修：横田滋・早紀江、作画：本そういち、出版社：双葉社）をモチーフとし、日本俳優連合の多大なご協力をいただき、声優の方々にボランティアで出演していただきました。

アニメのDVDは、国内外において拉致問題に対する理解を深めていただくため、日本語版のほか、外国語の吹き替え版（英語・中国語・韓国・ロシア語）及び字幕版（フランス語・スペイン語・ドイツ語・イタリア語・タイ語）を制作しております。

また、政府・拉致問題対策本部のホームページ（<http://www.rachi.go.jp/>）から、動画ファイル（英語・中国語・韓国語・ロシア語版・フランス語・スペイン語・ドイツ語・イタリア語）を無料でダウンロードできます。

このアニメを視聴することにより、小学生、中学生及び高校生に北朝鮮による拉致問題について深く認識し、拉致問題を人権問題として考える契機としていただきたいと考えております。



## アニメ「めぐみ」の学校における活用促進について(指導上の参考資料)

拉致問題対策本部は、拉致問題の解決には、幅広い国民各層の理解と支持が不可欠であり、その関心と認識を深めることが求められていると考えています。この趣旨を踏まえ、啓発資料としてアニメ「めぐみ」のDVDを作成し、平成20年以降各学校に送付し、拉致問題の理解促進や人権教育等にご活用いただけようお願いしています。

今般、各学校における今までの活用事例を基に、活用実践例と活用のポイントの例を紹介しますので、ご参考にしていただき、積極的にアニメ「めぐみ」をご活用いただきますようお願いします。

### ○ 活用実践例

実際にアニメ「めぐみ」を活用して行った、小学校6年生の道徳の時間の授業の実践例を紹介します。

#### 1. 目標

家族が深い絆で結ばれていることを考え、家族の幸せを求めて、進んで役に立とうとする態度を育てる。

#### 2. 内容

##### (1) 工夫

○小学生としての発達の段階等に配慮しながら、人権課題の一つである拉致問題を通して家族とのかかわりを考えさせるようにするため、6年生の道徳に位置付け、登場人物に共感させて子を思う親の心の痛みを考えさせることを意図した。

○視聴時間が25分間と授業時間の半分以上となるため、「めぐみ」の概略等を示した上で視聴を行う。

##### (2) 実際の取組

○視聴前、家族の絆の大切さとそれを打ち破った行為として拉致問題が起ったことを知らせる。

○視聴後、3つの柱を基に話合いを行い、児童の反応を聴取する。「( )」内は児童の主な反応。

①突然いなくなった時の両親の気持ち(自分たちを責めている。)

②街頭で救出を呼びかける両親の気持ち(娘と一緒に助けてほしい。力をかけてほしい。)

③マスコミに取り上げられたことに対する両親の気持ち(拉致問題は二度と起こしてほしくない。)

○登場人物を通して実感した家族の深い絆を基にして、自分たちの家族との関わりを想起し、家族に対する思いを発表し合う。(児童の主な反応: 家族との絆は何ものにも代えがたいものだから、家族のために役立つことを精一杯やっていきたい。)

#### 3. 効果

○DVDの視聴と話合いにより、人権課題としての拉致問題に触れるとともに、子を思う親の心の痛みや叫びを学ぶことで、家族との関わりについての思いを培うことが出来た。

これは小学校6年生の道徳の時間における活用事例ですが、こうしたもののはか、各学校の状況に応じて、中学校や高等学校においても、総合的な学習の時間や特別活動、社会科・地理歴史科・公民科等の学習での活用も考えられます。

### ○ 活用のポイントの例

1	教員による事前の準備	教員がアニメ「めぐみ」をあらかじめ視聴してその内容を十分に把握した上で、学習のねらいや進め方、児童生徒に考えさせたいこと等について、学習計画を作成する。
2	視聴前の事前学習	児童生徒に対し、拉致問題に関して知っている知識を発表させたり、アニメ「めぐみ」の概説や視聴に当たっての視点をあらかじめ示したりするなど、視聴前にアニメの視聴に対する関心を高める工夫や配慮を行う。
3	アニメ「めぐみ」の視聴 (視聴時間: 約25分間)	
4	視聴後の学習の展開	あらかじめ示した視点に沿ってアニメを見て感じたことをまとめさせクラスで発表させたり、グループ別による協議・発表を行わせたり、拉致問題に関する学習の深化や人権問題に関する学習につなげたりするなど、アニメの視聴を深める指導を行う。